



® 環境省

エコアクション21
認証番号 0005408

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



有限会社
金田商事

2023年度環境経営レポート

(対象期間:2023年 10月~2024年 9月)



発行日: 2025年6月15日
改定日: 2025年7月28日

有限会社金田商事 核心的価値
「やり方」より「あり方」が重要

経営理念

人と資源の活躍創造

当社は、企業活動を通じて、
人と資源が活躍する世界を創ります。

セルフイメージ

当社は、『資源ご処分解決業』

資源の課題解決と価値創造

当社は、資源の価値を再認知し、「もったいない」を自ら体現する企業であり、
使命感と熱意をもって、当社が持つノウハウ・企業間リレーションシップを
フル活用して、資源全般の売買、処理を行い、お役に立つ企業を目指します。

カンパニースピリッツ

『一日一笑』、『一日ひと汗』

『イチありがとう』

んでもって、『1 チャリンチャリン』

そして、自分の事を好きになれる働き方をしよう！

理想の社員像

「One for all, All for one」の精神に立ち、
仲間を信じて、ひらくひと
強く、優しく、おおらかな、自ら拓く人であれ！

2023年度 環境経営レポート 目次

- I. 〈環境経営方針〉…………… P3
- II. 登録事業所の概要……………P4
- III. 主な環境負荷の実績……………P9
- IV. 環境経営目標及びその実績……………P9
- V. 環境経営計画の取組結果とその評価、
次年度の環境経営計画……………P11
- VI. 環境関連法規制等の遵守状況……………P17
- VII. 代表者による全体の評価と見直し・指示…P18
- VIII. その他の取り組みを紹介……………P19

《有限会社 金田商事 環境経営方針》

〈環境経営理念〉

当社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める経営を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに当社の環境経営方針を定めます。

〈環境保全への基本方針〉

1. 経営における課題とチャンス定期的に明確化すると共に、次の事項について環境経営目標・環境計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
- ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
- ③節水による水使用量の削減。
- ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正な資源循環を推進するため、取扱量の増加を目指す。
- ⑤地域貢献活動の実施。
- ⑥受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守いたします。

3. 環境への取組みを環境経営レポートとして、取りまとめ公表します。

※上記の方針、活動を関係者に、周知徹底致します。

制定日：2009年11月1日
改定日：2020年10月1日
改定日：2024年06月24日
改定日：2024年10月9日

取締役社長

金田 大地

II.登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社:兵庫県伊丹市口酒井二丁目7番21号 工場も同所在地

(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金1,600万円

(5) 認証・登録の対象組織・活動

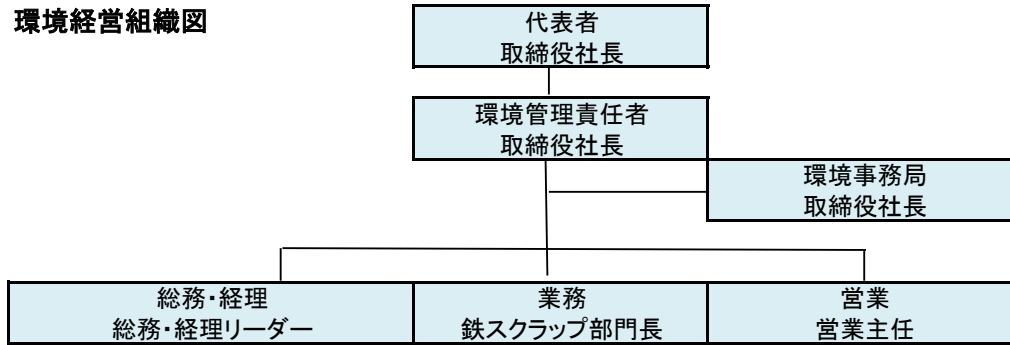
登録事業者名:有限会社金田商事

対象事業所:本社

活動:金属くず商(金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買)、古物商(古物の売買)、
産業廃棄物収集運搬業
不動産の保有、売買、仲介、賃貸、管理、斡旋その他宅地建物取引業

(6) 事業年度 10月～翌年9月

(7) 環境経営組織図



- ・株主 1名。
- ・取締役(役員) 1名
- ・監査役の選出義務なし。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンス の明確化 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営計画・取り組みの実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開 (事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

(8) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708
担当者 同上

(9) 事業内容

金属くず商(金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買)、古物商(古物の売買)、産業廃棄物収集運搬業、不動産業

(10) 事業の規模

基準年度: 2019年度 対象年度: 2023年度

総売上高 5.09億円 (2023年度)

主要商品取り扱い量 4,982.2t (2023年度) ※事業年度期末時点

活動規模	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
取り扱い数量	t	6341.1	6790.8	6060.6	6056.4	4982.2
内訳:金属スクラップ	t	6283.5	6752.1	6047.1	6042.3	4971.9
内訳:産業廃棄物(収集運搬)	t	57.6	38.7	13.5	14.1	10.4
売上高(税抜)	百万円	255	460	549	519	519
従業員	人	6	6	8	8	6
床面積	m ²	950	950	950	950	950
保有貨物車両台数	台	5	5	5	6	6
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	6	6	6	6	6

(11) 保有諸許可

・金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

・古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631372500044号)

古物の売買。

主たる区分:機械工具

扱い品目:機械工具・自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・道具類

・産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:令和4年1月22日

許可の有効年月日:令和9年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.紙くず 3.木くず 4.繊維くず 5.ゴムくず 6.金属くず

7.ガラスくず 8.がれき類 石綿含有産業廃棄物を含む

水銀使用製品産業廃棄物を含む 水銀含有ばいじん等を除く

以上8種類

2.許可の条件 なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

令和 4年1月17日更新許可

4.府内の政令市による積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第8項の規定による許可証の提出の有無 無

2.)兵庫県許可番号 02803132377号

許可の年月日:令和5年4月3日

許可の有効年月日:令和10年4月2日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

取扱産業廃棄物の種類:

- 1.汚泥(水銀含有ばいじん等又は石綿含有産業廃棄物を除く) 2.廃油
 3.廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む) 4.紙くず 5.木くず 6.繊維くず
 7.動植物性残さ 8.ゴムくず 9.金属くず 10.ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を含む。)
 11.がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上11種類

上記については、水銀使用製品産業廃棄物を含む

2.許可の条件 当該産業廃棄物の運搬先については排出業者の指示に従い、運搬先の受入条件を遵守すること。

3.許可の更新又は変更の状況

令和 5年4月3日新規許可

4.積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第8項の規定による許可証の提出の有無 無

以下余白

(12) 施設の状況

保有設備

	車両詳細	台数	使用燃料・動力	備考
運搬車両	10t積み平ボディ車	3	軽油	
	7t積み平ボディ車	1	軽油	
	4t積みユニット搭載平ボディ車	1	軽油	
	4t積みアームロール車	1	軽油	
	軽トラック車	1	ガソリン	
荷役車両	2.5t揚力 フォークリフト	3	軽油	取引先構内車を含む。
	2.5t揚力 フォークリフト	1	LPG1台	取引先構内車。
	油圧式バックホー(0.25㎡クラス)	1	軽油	
	油圧式バックホー(0.7㎡クラス)	1	軽油	
乗用車両	普通乗用車	1	ガソリン	

(13) 産業廃棄物収集運搬実績

産業廃棄物(収集運搬)	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
廃プラスチック/混合廃棄物	t	57.6	38.7	13.5	14.1	10.4
産業廃棄物収集運搬 合計	t	57.6	38.7	13.5	14.1	10.4

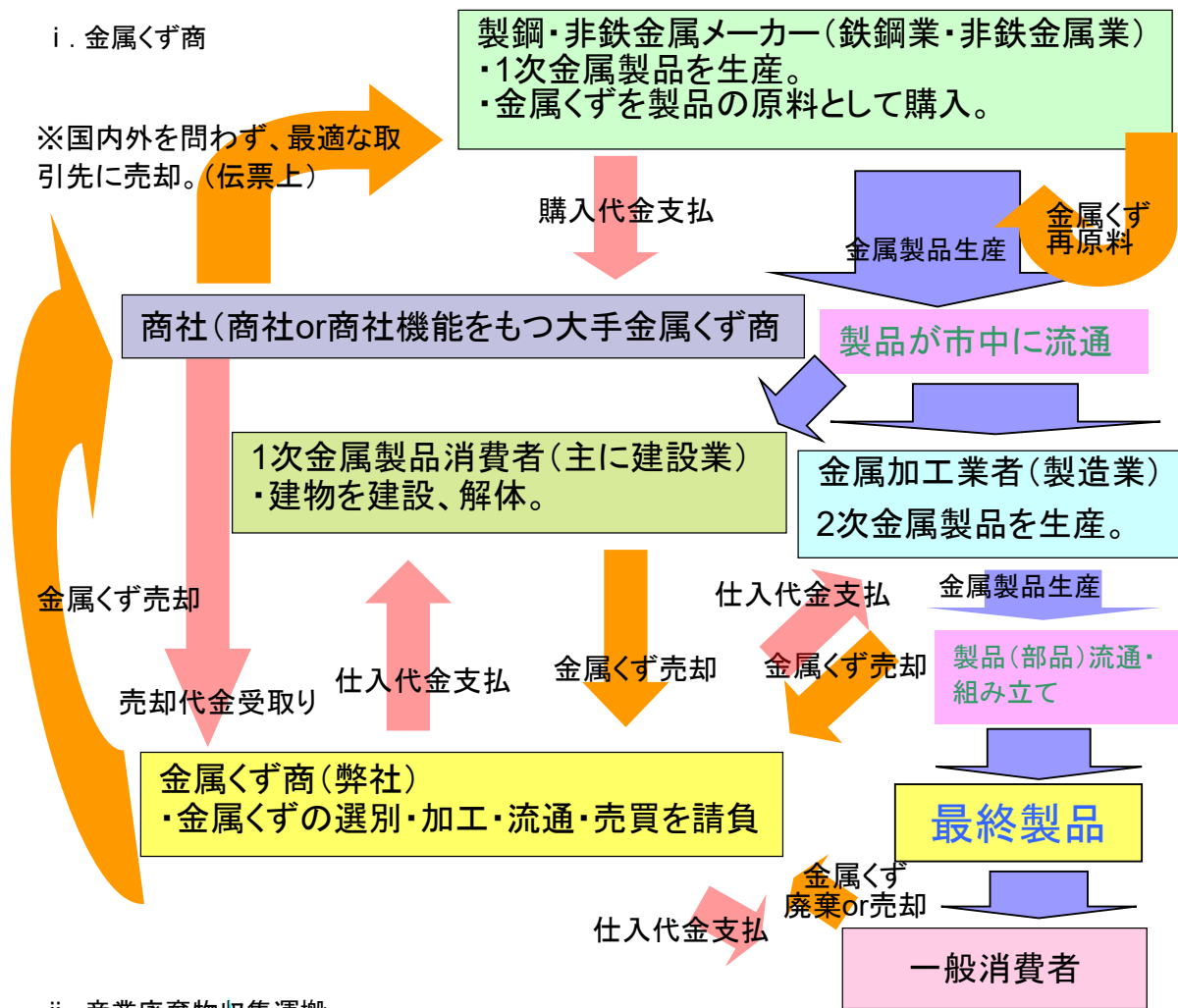
(14) 廃棄物処理料金

取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

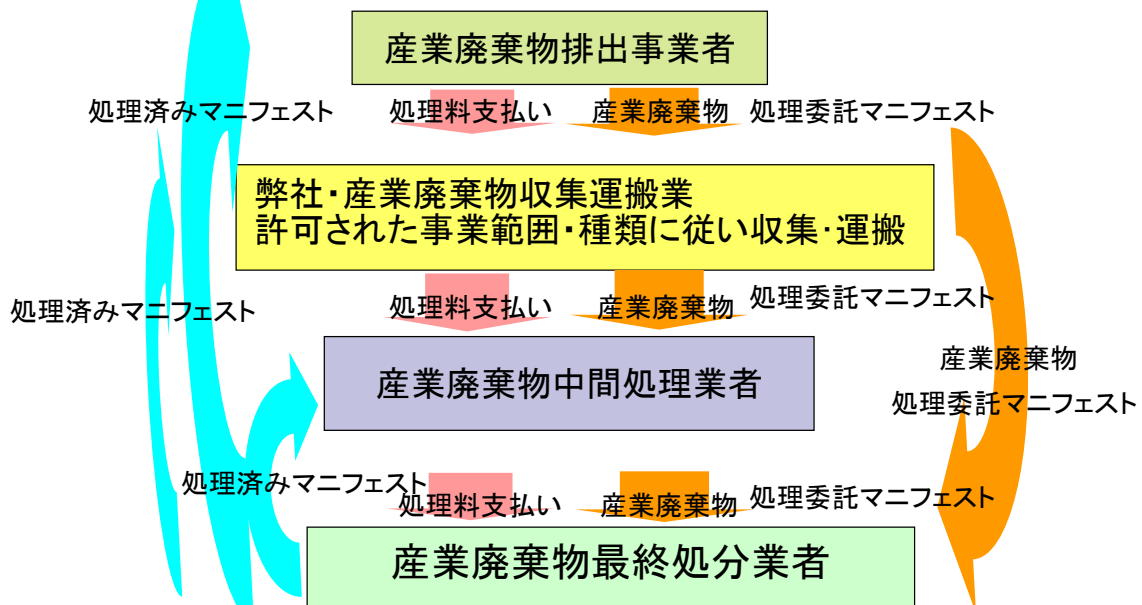
(15) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商

※国内外を問わず、最適な取引先に売却。(伝票上)



ii. 産業廃棄物収集運搬



Ⅲ. 主な環境負荷の実績

項目	単位	基準年度 2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂	70,732.7	81,183.3	76,150.7	76,158.0	61,572.8
内訳:電力のCO2排出量	kg-CO ₂	207.7	-	213.2	228.7	-
内訳:軽油のCO2排出量	kg-CO ₂	67,393.6	78,200.8	73,318.5	73,213.0	59,315.9
内訳:ガソリンのCO2排出量	kg-CO ₂	564.8	325.7	457.5	645.0	590.7
内訳:LPGのCO2排出量	kg-CO ₂	2,566.7	2,656.7	2,161.4	2,071.4	1,666.1
廃棄物排出量	t	6.19	5.79	5.88	8.78	9.41
一般廃棄物量排出量(自社)	t	0.18	0.21	0.14	0.16	0.17
一般廃棄物量排出量(選別)	t	0.58	0.47	0.48	0.43	0.52
産業廃棄物排出量(自社)	t	2.12	1.80	0.00	0.00	0.00
産業廃棄物排出量(選別)	t	3.31	3.31	5.26	8.19	8.72
水使用量	m ³	39.00	39.00	44.00	59.00	52.00
受託した産業廃棄物の 処理量	t	57.64	38.70	13.50	14.10	10.35

※小数点以下の処理方法につき、「環境への負荷の自己チェック表」と許容可能な極少誤差が生じています
電力のCO2排出係数は、2020年度以降 0kg-CO2/kWh[出光グリーンパワー(株)プレミアムゼロプラン®を導入]

Ⅳ. 環境経営目標及びその実績

・環境負荷削減目標

項目	年度	基準値 基準年度 (2019年度)	2023年度		2024年度	2025年度
			(目標)基準年度 比99.00%~	(実績)	(目標)基準年度 比98.75%~	(目標)基準年度 比98.50%~
1.電力の二酸化炭素排 出量削減※1	kg-CO ₂	207.702	205.625	0.000	205.106	204.586
	kWh	9,441.0	9,346.6	10,830.0	9,323.0	9,299.4
	原単位:取扱商品1t当たり kg-CO ₂ /t	0.033	0.029	0.000	0.0	0.032
2.軽油の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO ₂	67,393.550	66,719.614	59,315.948	66,551.130	66,382.647
	L (%)	25,680.2	25,423.4	25,650.6	25,359.2	25,295.0
	原単位:取扱商品1t当たり kg-CO ₂ /t	10.628	9.316	11.906	10.495	10.469
3.ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	564.767	559.119	590.746	557.707	556.296
	L (%)	243.3	240.8	254.5	240.2	239.6
	原単位:取扱商品1t当たり kg-CO ₂ /t	0.089	0.078	0.119	0.088	0.088
4.LPGの二酸化炭素排 出量削減	kg-CO ₂	2,566.676	2,541.009	1,666.088	2,534.592	2,528.176
	kg	855.0	846.5	555.0	844.3	842.2
	原単位:全取扱商品1t当たり kg-CO ₂ /t	0.405	0.355	0.334	0.400	0.399
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	70,732.695	70,025.368	61,572.782	69,848.536	69,671.704
原単位:取扱商品1t当たり	kg-CO ₂ /t	11.155	11.043	12.359	11.015	10.987
5.一般廃棄物の削減 ※2	上段:総量t	0.176	従業員1人当り 0.043t/人以下	0.172	従業員1人当り 0.043t/人以下	従業員1人当り 0.043t/人以下
	下段:(t/人)	0.035		0.029		
6.産業廃棄物の削減 ※3	上段:総量t	0.000	商品数量1t当り 0.0085kg以下	0.000	商品数量1t当り 0.0085kg以下	商品数量1t当り 0.0085kg以下
	下段:(kg/t)			0.0000		
7-1.有価物から除去廃棄物	(t)			8.72		
8.節水	上段: 総量m ³	44.00	35.00	52.00	56.00	56.00
	下段: (m ³ /人)	6名 使用量1人 換算8.0m ³ /人≤ 40m ³	従業員7m ³ /人≤ 35m ³	従業員 7.375m ³ /人 ×	従業員7m ³ /人≤ 35m ³	従業員7m ³ /人≤ 35m ³
9.化学物質使用量の削減※4	使用実績なし		使用実績なし		使用実績なし	

※小数点以下の処理方法につき、「目標設定書」と許容可能な極少誤差が生じています。

※1電力のCO2排出係数は、2017年度以降0.022kg-CO2/kWh[出光グリーンパワー(株)]に変更。

電力のCO2排出係数は、2020年度以降 0kg-CO2/kWh[出光グリーンパワー(株)プレミアムゼロプラン®を導入]

※2 6.一般廃棄物の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

※3 7.産業廃棄物の削減の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

※4 化学物質を使用していないため目標設定していない。

・取り扱い数量目標

年度 項目		2019年度	2023年度		2024年度	2025年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:2019年度比113%)	トン	6,283.50	7,100.37	4,971.86	7,226.04	7,351.71
			113%	70%	115%	117%
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:2019年度比106%	トン	57.60	59.94	10.35	62.25	63.40
			106%	17%	108%	110%

・地域貢献活動

年度 項目		2019年度	2023年度		2024年度	2025年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
11.弊社周辺の環境美化と付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回	14	14	19	14	14
清掃活動…空き缶・ペットボトル拾い	単位:本	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ
年度 項目		2019年度	2023年度		2024年度	2025年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	単位:kg	78,326.4	81,459.6	63,035.2	83,026.0	84,592.5
			104%	77%	106%	108%

・受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮

年度 項目		2019年度	2023年度		2024年度	2025年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
12. ①産業廃棄物からの有価物回収	単位:kg	9,220	9,589	13,568	9,773.31	9,957.70
②収集運搬時の飛散事故、漏洩事故0(ゼロ)	単位:件	0	0	0	0	0

V. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
I.二酸化炭素排出量削減(全体) 基準年度比99.00%	基準年度	70,732.7	kg-CO ₂	△目標達成 目標4項目中 達成 2 未達成2
原単位:取扱商品1t当たり		11.15	kg-CO ₂ /t	
達成手段 下記の1~4による。	目標	70,025.4	kg-CO ₂	評価が分かれる。原単位評価で、累計目標が11.04kg-CO ₂ /tで実績が12.36kg-CO ₂ /tで111.95%となり未達成。総排出量目標は達成。大きな前進である。総括としての全体評価は、目標未達成、達成。電力は、100%再生可能エネルギー調達で、CO ₂ 実質排出量は0。目標達成。軽油は、カーボンオフセット燃料の採用で、CO ₂ 累計目標値比89%、排出量は達成だが原単位目標127.78%で目標未達成。ガソリンは、使用量が原単位目標値比で153.84%で目標未達成。LPGは、目標値比65.56%で目標達成。CO ₂ 排出全4項目中2項目の目標を達成で、前年度より、改善がみられた。取扱量の増大が課題。
原単位:取扱商品1t当たり		11.04	kg-CO ₂ /t	
1.電力の二酸化炭素排出量削減 2.軽油の二酸化炭素排出量削減 3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減 4.LPGの二酸化炭素排出量削減	実績	61,572.8	kg-CO ₂	
達成手段実践状況評価 下記の1~4による。		12.36	kg-CO ₂ /t	
	削減量	8,452.6	kg-CO ₂	
	目標対実績比率	0.879		
1.電力の二酸化炭素排出量削減	基準年度	207.7	kg-CO ₂	○ 目標達成
		9,441.0	kWh	
原単位:取扱商品1t当たり		0.033	kg-CO ₂ /t	出光電力カーボンオフセット 10,830 kg-CO ₂
*電力使用量の二酸化炭素排出係数 出光プレミアムグリーンパワー0.022kg-CO ₂ /kWh。 同社プレミアムゼロプラン 実質0.0kg-CO ₂ /kWh。	目標	205.6	kg-CO ₂	評価:CO ₂ は目標値比115.90%で未達成。使用量目標値比115.87%で目標未達成。しかし、再生可能エネルギー100%電力供給なため、CO ₂ の排出量は、実質0。目標達成。 とはいえ、削減活動は継続するので、管理計数が無いと評価できないので、目標と実績の二酸化炭素排出係数を0.022kg-CO ₂ /kWhで算出。目標が0.029kg-CO ₂ /tで実績が0.048kg-CO ₂ /t。再生可能エネルギー100%電力供給証明書 受領済み。
原単位:取扱商品1t当たり			0.029	
①冷暖房の控えめな使用(冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動	実績	0.0	kg-CO ₂	
			0.0	
原単位:取扱商品1t当たり		0.000	kg-CO ₂ /t	
③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。	削減量	205.62	kg-CO ₂	
			9,346.59	kWh
上記 達成手段実践状況評価 ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要以外消灯、電源OFFを行っている。	目標対実績比率(使用量)	0.00		【次年度取り組み】 省エネ活動、散水による空調効率向上策、自然光、自然風の利用検討を指示。

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
2.軽油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	67,393.55	kg-CO ₂	× 目標未達成 ×
		25,680.19	L (ℓ)	
原単位:取扱商品1t当たり		10.63	kg-CO ₂ /t	出光カーボン オフセットfuel 8,000 kg-CO ₂
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④増車・買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 増車時、燃費マーク確認済。 ⑤…○ 車検・オイル交換、タイヤ交換等実施。	目標	66,719.61	kg-CO ₂	評価: 出光カーボンオフセットfuelの購入開始。原単位評価。目標が9.32kg-CO ₂ /tで実績が11.91kg-CO ₂ /t 目標値比127.78%で未達成。軽油の通期CO ₂ 累計は、カーボンオフセット8,000kg-CO ₂ を差し引いて目標値比89%に減少。CO ₂ 実質排出量については、目標を達成しているが、取引数量が基準年度比で、79.12%と大幅減少していることで、原単位での目標達成が出来なかった。昨年度以上に、自動車関係製造業から発生する商品(スクラップ)が減少したことが原因。まずは、取扱量の増加が急務。 【次年度取り組み】 環境負荷を小さくするカーボンオフセット燃料の使用拡大検討を指示。
		25,423.39	L (ℓ)	
		9.32	kg-CO ₂ /t	
	実績	59,315.95	kg-CO ₂	
		25,650.62	L (ℓ)	
		11.91	kg-CO ₂ /t	
	削減量	7,403.67	kg-CO ₂	
-227.23		L (ℓ)		
目標対実績比率	0.89			
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	基準年度	564.77	kg-CO ₂	× 目標未達成
		243.26	L (ℓ)	
原単位:取扱商品1t当たり		0.089	kg-CO ₂ /t	
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④増車・買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施	目標	559.12	kg-CO ₂	評価:悪い。 原単位評価。目標が0.078kg-CO ₂ /tで実績が0.12kg-CO ₂ /tで、目標値比153.84%で未達成。通期CO ₂ 累計目標値比105.65%で昨年度より改善。ガソリン使用は、軽トラック1台と営業車1台。原単位の基準となる商品取扱量が減少、未達成になっていることから、ガソリンに関しても、未達成となった。 【次年度取り組み】 エコドライブ運動の徹底を指示。
		240.83	L (ℓ)	
原単位:取扱商品1t当たり		0.078	kg-CO ₂ /t	
実績	590.75	kg-CO ₂		
	254.45	L (ℓ)		
原単位:取扱商品1t当たり		0.12	kg-CO ₂ /t	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 車両の買換え時確認済。 ⑤…○ 車検・オイル交換等実施。	削減量	-31.63	kg-CO ₂	
		-13.62	L (ℓ)	
	目標対実績比率	1.06		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容		
4.LPGの二酸化炭素排出量削減	基準年度	2,566.68	kg-CO ₂	○ 目標達成		
		855.00	kg			
		0.45	kg-CO ₂ /t			
エコドライブ [※] 運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施 <u>上記 達成手段実践状況評価</u> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…○ 特定自主検査実施済み。	目標	2,541.01	kg-CO ₂	基準年度 取扱数量(t)	当年度 取扱数量(t)	使用量 達成状況:達成 CO ₂ 排出量 達成状況:達成 評価:良い。個別原単位目標が [※] 0.35kg-CO ₂ /tで同実績が0.33kg-CO ₂ /t達成。LPG車使用の1顧客の基準年度(2019)の取引数量2,381トン、当年度1,159トンと基準年度は、当年度の1.39倍、当年度は、基準年度の0.486倍となっている。消費量は、目標値比65.56%に減少。2024年1月より自動車メーカーD社不正検査問題を原因とした取引数量減少で、使用量減少。【次年度取組み】エコドライブを指示。
		846.45	kg	2,381.00	1,159.44	
		0.35	kg-CO ₂ /t			
	実績	1,666.09	kg-CO ₂			
		555.00	kg			
		0.33	kg-CO ₂ /t			
	削減量	874.92	kg-CO ₂			
		291.45	kg			
	目標対実績比率	0.66				

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
5.一般廃棄物の削減	基準年度	0.176	t	○ 目標達成
		0.035	t/人(年間)	
①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 再利用裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ譲渡。	目標	従業員1人当り 0.043t/人以下	t	評価:優良。月次目標および累計目標は、10ヶ月の達成。金属スクラップ選別由来一廃と徹底して分別管理を行った。紙の梱包材や古紙に関しては、集積場を設け、一定量になると、古紙問屋に資源として譲渡した。また、取引先に提出する伝票の一部を先方の了解を得て、ペーパーレス化を推進。排出抑制策の継続を指示。 (取り組み計画外の取り組み)商品の選別ダストからの発生量は、当年度は、0.52t。再資源化率は、年間で57.7%。荷受け時、容器の返却、削減努力をしている。ただ、どのような廃棄物が発生するかはコントロールできないので、発生した物を着実に再資源化に回すことを指示。
	実績	0.172	t	
	実績 (1人換算)	0.022	t/人(年間)	
	削減量	0.00	t	
	削減量 (1人換算)	0.01	t/人(年間)	
	目標対実績比率	0.500		
6.産業廃棄物の削減	基準年度	0.00	t	○ 目標達成
①分別ボックスの設置 ②分別意識の向上を目的とした社員教育 ③分別の徹底による有価物化 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 大まかな品目ごとに分別。 ②…○ 随時、口頭によるミーティングと指導を行なっている。 ③…○ 一部再生事業者へ売却。	目標	商品数量1t 当り0.0085kg 以下	kg/t	評価:良い。自社由来の産業廃棄物発生量は、年間で、0kgと発生無し。金属スクラップ選別由来の産業廃棄物と徹底して分別している。 【次年度取り組み】 継続した努力を指示。 (取り組み計画外の取り組み)商品(金属スクラップからの選別ダスト発生)12ヶ月累計数量8,720t 管理・削減目標ではない項目であるが、廃棄物を排出しないという意志で活電線を巻いておく木製ドラムは、業者から買取不可を通達され産廃に。有価物であった廃プラスチックダストが、中国の輸入禁止により、産廃となり、再資源化率は0.0%となった。
	実績	0.0000	kg/t	
	削減量	0.18000	kg/t	
	目標対実績比率	0.00		
7.節水	基準年度	44.00	m ³	○ 目標達成
		14.67	m ³ /人	
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗い水量の適正化 上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。給油時、スタンドで簡易洗車をしている。 ②…○ 手洗い時の水の出っ放しをしないよう指示教育した。	目標	35.00	m ³	評価:良い。11月は使用量が10m ³ 超えの使用量に増え、月次は6回中2回の目標未達成がち。ただ、通期水使用量を通期平均社員数7.33人で割ると目標達成。従来通り社内での洗い物や手洗い時にも、皆が節水意識を持って行っているが、トイレを自宅で済ませず、毎朝会社で済ます社員がおると1Fトイレを洋式に改修したところ、お客さんの使用頻度も上がったようで、致し方ない。通期平均社員数7.33人 【次年度取り組み】 継続した削減行動を指示。
		7.40	m ³ /人	
	実績	52.00	m ³	
		7.09	m ³ /人	
	削減量	-17.00	m ³	
		0.31	m ³ /人	
目標対実績比率	1.49			
	0.96			

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
8.有価物の取り扱い量増加	基準年度	6,283.50	t (トン)	× 目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	7,100.37	t (トン)	評価:非常に悪い。目標未達成。 通期累計目標値比70.02%。今期は、取引先である自動車関連の製造業が不正検査問題により、生産が5割減少し、回復せず、スクラップの発生が減少した。
	実績	4,971.86	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○仕入顧客登録数前期末比純増数231件 ②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確保。	増加量	-2,128.51	t (トン)	金属スクラップ受託運搬量は、20.9tと前年度の67.3tから激減し、目標未達成となった。仕入顧客登録純増件数 328件 前年度293件よりも、純増数が増加。 【次年度取り組み】営業活動で、法人取引を獲得、安定的な仕入れを確保し、受託運搬量も増加させるよう社内体制を整える。
	目標対実績比率	0.70		
9.産業廃棄物の取扱量増加	基準年度	57.60	t (トン)	× 目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	59.94	t (トン)	評価:非常に悪い。当年度は、自動車関係の製造業が一段と低迷し、悪い物価上昇も進行し、消費・企業活動が低迷、オフィス移転、撤収も一巡し、発生が減少、目標の17.26%の取扱量となり目標未達成。 【次年度取り組み】収集運搬エリア拡大から、収集運搬量の増加を目指す。
	実績	10.35	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○新規契約数前期末比純増数1件 ②…○ プラスチック廃棄物に関して、提案を行った。 ③…○ 金属スクラップとセットの取引には価格の割引きを行った。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHPから情報収集を行なっている。	増加量	-49.59	t (トン)	
	目標対実績比率	0.17		
10.地域貢献活動	基準年度	14	回	○ 目標達成
	計数管理のみ		本	
①清掃活動。	目標	14	回	清掃活動・評価:良い。実施回数は、目標14回に、当期16回で目標達成。全員での一斉清掃活動に加え、個々の清掃活動を行っている。空き缶数は、清掃が行き届くことにより、投棄する人が少なくなり、落ちている数が激減し、目標未達成となった。ただ、本来この方が良い。 【次年度取り組み】引き続き、情報提供、発信に対し、地域からのレスポンスを受け取れるコミュニケーション手段を模索するよう指示。
投棄された空き缶・ゴミ拾い。	実績	19	回	
実施回数と回収量		計数管理のみ	本	
上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 全社一斉清掃活動が出来ない代わりに日常の清掃を行うことが出来た。	対目標量	5	回	
		計数管理のみ	本	

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。 目標: 買い受け数量を前年度比2%増加させる。 主要買い受け品目: アルミ缶・金属製不用品 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 自治会・子供会、伊丹市近郊在住の方から幅広い買取りを行うことが出来た。	基準年度	78,326.40	kg	× 目標未達成 ・評価: 悪い。買い入れは、毎月行えている。月次で、達成0回。LINEの友達宛てにメッセージ送信を買取単価改定毎に行い、SNSの活用としてFBの投稿更新、google広告、同マイビジネスの改善を行った。 【次年度取り組み】引き続き、地域に根付いた商売をする施策を取るよう指示。広報活動や地域行事への参画を指示。
	目標	81,459.56	kg	
	実績	63,035.20	kg	
	対目標量	-18,424.36	kg	
	目標対実績比率	0.77		

11. 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 1) 産業廃棄物からの有価物回収 基準年度比103% ① 排出事業者から金属有価物の選別収集の承認を得る。…○ ② 金属くず商の能力を存分に発揮する。…○	基準年度	-	kg	○ 目標達成 評価やや悪い。受託産廃からの有価物回収量は、目標値に対し71.14%で未達成。オフィス縮小移転の一巡後で案件が少なかった。ただ弊社の強みを活かし、産廃処理を委託した排出事業者様も、SDGsに参画できている良い取り組みだと思う。 【次年度取り組み】産廃処理を委託した排出事業者様がSDGsに貢献されていることを証明することで、お客様に喜んでいただく施策を行いたいと思う。
	目標	9,496.7	kg	
	実績	13,568.0	kg	
	目標対実績比率	1.43		
2) 収集運搬時の飛散事故、漏洩事故0(ゼロ) ① シート、ネットによる養生確実実施。…○ ② 容器の密閉、転倒防止対策確実実施。…○	基準年度	-	件	○ 目標達成 評価: 良い。年間を通して収集運搬時の産廃の飛散、漏洩事例、事故は起こらなかった。引き続き、情報共有や社内教育で運転手、作業者の安全意識の向上に努める。 【次年度取り組み】飛散防止のために掛けるシートを軽量化したものに更新することを検討中。
	目標	0	件	
	実績	0	件	
	目標対実績比率	0		

VI. 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)	評価方法	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正管理、処理委託。	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
	産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)		○ 適合
廃棄物処理法 (収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上) 第21条の4	防災設備業者による検査実施。2年毎1回	○ 適合
自動車から排出される窒素化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	自動車NOx・PM法 適合車の使用。	車検証確認。	○ 適合
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	第1章第5条(自動車の所有者の責務) 第2章第8条(使用済自動車の引渡し義務) 第4章第73条(再資源化預託金等の預託義務)	車検証、リサイクル券確認。	○ 適合
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	特定家庭用機器再商品化法 第2章第6条(事業者及び消費者の責務)	廃棄の有無	○ 廃棄実績なし。
フロン排出抑制法 改正フロン排出抑制法が令和2年4月1日より施行。	廃棄時、修理時の ・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認(引取り・破壊証明書) ・業務用 空調設備の点検義務。	廃棄の有無	○ 廃棄実績なし。
遵守評価: ○…適合 違反なし △…改善後、適合(一部問題あり) ×…不適合 重大な違反あり			

□遵守評価についてのコメント

当年度において、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

□外部からの苦情

本活動期間中において、外部からの苦情、申し立て 0件。

VII. 代表者による全体の評価と見直し・指示

【総括】大・中・小項目合わせ、全14項目中、達成が8項目、未達成が6項目となり、前年度より改善し、全体評価は良。目標設定において、CO2排出量、産業廃棄物の排出量は取扱商品数量に産業廃棄物収集運搬量を加えた全社総取扱量1t当たりの原単位に設定、一般廃棄物と水使用量は、従業員1人当たりを設定した。①I.CO2の全体排出量は、目標が11.04kg-CO2/tで実績が12.36kg-CO2/tで未達成。CO2排出量は目標値比87.92%で、達成している。総括としての全体評価は、未達成ながらも良と言える。当項目4項目中、電気、LPGの2項目で目標達成、未達成は、軽油とガソリンで前年度より減った。I.-1現在の電力供給会社と契約している電気プランは、「再エネ100%電力供給証明書」を交付しており、実質的CO2排出量は、0である。電力使用量は増加しているが、CO2の排出量は絶対的に削減できた。また、I.2~5化石燃料(以下、すべて原単位比較)については、2.軽油目標が9.32kg-CO2/tで実績が11.91kg-CO2/t 目標値比127.78%で上回り、目標未達成だが、カーボンオフセット燃料の一部使用でCO2を8,000kg-CO2削減。結果、CO2排出量の絶対値は目標を達成した。3.ガソリンは、営業活動活発化の結果、使用量が増え、目標が0.08kg-CO2/tで実績が0.12kg-CO2/tで、目標未達成。6.LPGは、目標が0.35kg-CO2/tで実績が0.33kg-CO2/tで達成。②廃棄物全般は、7.-1一廃が達成、7.-2産廃も達成。商品の取り扱いに準じて発生する一般・産業廃棄物の再資源化は、一廃は、57.7%、産廃は、廃プラ再生不可で0%。③8.節水は、隔月達成は未達成だが、通期平均社員数7.33人で達成。④9.有価物取扱量は目標値70.02%の低成績で目標未達成。主力仕入先である自動車関連製造業がD社の不正検査問題の影響で、生産停止となり1月~6月の生産量が激減し、通常の1~2割で推移、長期間回復しなかった。金属スクラップ受託運搬量は、20.9tと前年度の67.3tから半分以下となり、助けにならなかった。仕入顧客登録数前期末比純増数328件と前年度より増加。法人製造業をメインに営業活動を行う。10.産廃収集運搬量は、新規取れず、既存の定期引取収集量も激減で、未達成。⑤11.地域貢献活動は、1)清掃活動は達成。2)買受量は、未達成。11.受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮は、廃棄物からの有価物収集が伸び達成、飛散・漏洩事故0件で達成。

環境経営活動の結果は、直近3年間で最良の成績となった。CO2排出量削減目標において、電力が2020年度以来の目標達成、軽油が原単位目標達成は逃したが、CO2の排出量で2014年度以来の目標達成があった。そのような中で原単位の基準となる取扱い数量が自動車メーカーD社の不正検査問題の影響で、過去20年間で最低数量を記録し、前従来ベースの取引量の2割減が継続し、全般的に、環境経営目標達成の妨げとなった。経営面では、取引量が低位で課題となったが、金属相場価格は比較的高値安定し、従前からの利幅拡大策、新規の高額商品お持込み客の獲得の結果、営業損益は許容出来る減益、前期買収の不動産収入が発生したおかげで、当期純利益は、前年度を20%ほど下回る結果で収まった。

来期目標は、前年度に続き、第一に環境経営目標の原単位である、商品取扱量の拡大。固定の法人顧客獲得を目指し、2018年以前の取引量を超える事を目標とする。その上で、3年計画の3年目ということで、環境コストへの積極的な投資を実行し、実際、CO2排出量は削減され、目標達成があった。同じく、3年計画の最終年を迎え、業務の属人化を廃して、仕組みで、PDCAを回していく社員主導の組織立った実施体制の構築も試みたが、社員の意識改革が進まず、これはとん挫している。それらを課題としながら、原単位環境負荷の低減と原単位利益の向上を実現させ、収益を環境投資にも配分し、環境、経営、持続可能性のバランスのとれた全体解を目指す所存である。

商品1t取扱い当たりの売上総損益の向上(付加価値の向上)	2019年度	1.28万円/t	2023年度	2.18万円/t
商品1t取扱い当たりの経常損益の向上(収益性の向上)	2019年度	0.09万円/t	2023年度	0.49万円/t
商品1t取扱い当たりの環境コスト	2019年度	0.08万円/t	2023年度	0.07万円/t
合計1t取扱い当たりの売上総損益に占める環境コスト	2019年度	5.07%	2023年度	3.40%
合計1t取扱い当たりの経常損益に占める環境コスト	2019年度	69.07%	2023年度	15.00%

収益性経営評価:良い 基準年度より向上している。

環境経営方針、環境経営目標・環境経営計画、環境経営システムの各要素の変更の必要性については、(以下、必要性 有 無 で表す)

環境経営方針…軽微な変更有り内容の変更は無し。環境経営方針は、経営理念とともに、当社の企業活動の指針となっており、意思決定時にも尊重すべきものである。企業価値向上に有意であり、さらに実践していく必要がある。

環境経営目標・環境経営計画…無

環境経営システムの各要素の変更 以下の通り

- ①二酸化炭素の排出量削減…無
- ②廃棄物の削減…無
- ③節水…無
- ④有価物の取扱い量増加…無
- ④”産業廃棄物の取扱い量増加…無
- ⑤地域貢献活動…無 買受数量…無
- ⑥環境関連法規制等の順守状況…無
- ⑦緊急事態想定結果/訓練記録…無

実施体制…有 社員から志願者を募り、環境経営活動に参加を促す。

以上の見直しをもって、環境目標と経営目標の統合を実現する。

取締役社長

金田 大地

Ⅷ. その他の取り組みを紹介

- ① BCPを策定し、事業継続力強化計画に係る認定を受けました。



下記5点を目的に、事業継続力強化に取り組む。

1. 自然災害発生時において、人命を最優先として、社員と社員の家族の安全と生活を守る。
2. 金属スクラップの売買、引取り作業サービス、供給の継続、又は早期の再開により、取引先への影響を極力少なくする。
3. 感染症の発生時においても人命を最優先して、従業員とその家族の安全と生活を守る。
4. 感染症が流行した場合であっても、感染拡大防止に全力を尽くし、企業活動を継続し、取引先への影響を極力少なくする。
5. サイバー攻撃を受け、事業に必要な情報を使用不可または収奪される状況に陥り、事業が停止したとしても、早期の事業再開、情報の復旧が行える体制を整える。

②壁面緑化に挑戦

CO2の吸収、遮熱効果を目的に、自社社屋で壁面緑化を行いました。



- ③ 地域貢献活動として、創業地の地元で植物のお祭り「BOTAFES」に協賛し、弊社の事業について、広く知って頂く機会となりました。また、BOTAFESに関連し、阪大環境サークル GECSさんと協同で苗を無償配布して、壁面緑化活動を行いました。



植木・造園

造園 岡崎仙花園 岡田園芸 岡本園芸 ガーデンセンター華遊
橋溪流園 有限会社シバタ園芸 勝華園 尚古園株式会社 谷愛
庭幸 BOUGH 株式会社花一春園 細河植木塾 Botart 株式
南造園 南忠雄 株式会社森芳楽園 藪内養内園 株式会社幽
線向ガーデン

環境・リサイクル

ロスタッフ 池田グリーンサイクル **有限会社金田商事** NPO法人

製造業

以上